

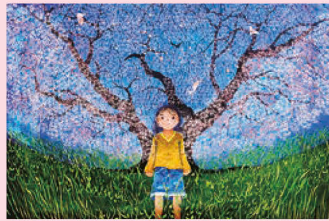
FUKU-FUKU



「酒井敦美 光の切り絵展」
 ~いつもはじまり~

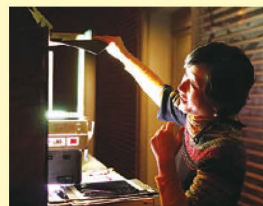


《一画二驚》春のはね1



《一画二驚》春のはね2

光の切り絵作家
 愛知県出身、在住。
 独学で絵を描き続け、
 切り絵の手法で舞台美術等
 を手掛ける。
 近年は“光”を透して表現する
 オリジナル切り絵作品を、
 《光の切り絵》と名付け、
 制作と発表を続けている。



光の切り絵には、一枚の切り絵が2
 場面に変化する《一画二驚》
 や、街路や自然の中に切り絵を
 投影する《野外幻灯》などがある。

「光の切り絵」
 その生みの親である酒井敦美さんの作品は、初めて見る人をおどろかせるインパクトに富んだ切り絵でありながら、見た人の心をほっこりと温めてくれる、そんな力をもっています。

第二回目となる本展では「はじまり」をテーマに、春らしく明るく優しいさにあふれた作品群で皆さまをお迎えします。

酒井敦美さんの代表作である「一画二驚」からは、物語のある温かな繋がりを表現した、よりすべりの作品をご紹介します。

始まりは高知県佐川町

旅好きな酒井さんが高知県佐川町にある、風流な酒蔵を訪れたときのこと。

書家 北古味可葉さんとの出会いがきっかけで、初めての野外幻灯が実現しました。その後、佐川町の酒蔵の道を舞台に10年間、町の一大イベントとして地域の人々に親しまれてきました。本展ではその世界を室内で表現します。

酒井敦美 プロフィール

光の切り絵作家
 愛知県出身、在住。
 独学で絵を描き続け、
 切り絵の手法で舞台美術等
 を手掛ける。
 近年は“光”を透して表現する
 オリジナル切り絵作品を、
 《光の切り絵》と名付け、
 制作と発表を続けている。

光の切り絵には、一枚の切り絵が2
 場面に変化する《一画二驚》
 や、街路や自然の中に切り絵を
 投影する《野外幻灯》などがある。

フクちゃん 横山隆一 (1960年)



開催期間 ● 2020年4月24日(金)～7月5日(日)
 開催場所 ● 横山隆一記念まんが館 企画展示室
 時間 ● 9:00～18:00(企画展最終入場17:30)
 休館日 ● 毎週月曜日(ただし、月曜が祝日の場合は開館)
 観覧料 ● 【前売券】 一般 700円 / 大学生・専門学校生 500円
 中・高校生 300円 / 小学生以下 250円
 【当日券】 一般 800円 / 大学生・専門学校生 600円
 中・高校生 400円 / 小学生以下 300円
 ※65歳以上の方及び身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は割引料金(当日料金の半額)でご覧いただけます。企画展の観覧者は、常設展示を割引料金(200円)で観覧いただけます。高校生以下無料。
 主催 ● KUTVテレビ高知
 公益財団法人高知市文化振興事業団 横山隆一記念まんが館

第15回
まんがの日
記念

4コマまんが大賞
作品展

開催日 ● 2019年11月30日(土)～12月27日(金)
場 所 ● 横山隆一記念まんが館企画展示室

本年度の「4コマまんが大賞」に応募いただいた1,127作品のうち、入賞作品11点を含む一次通過作品と高知県内からの応募作品453点、前回の入賞作品19点を展示した「第15回まんがの日記念4コマまんが大賞作品展」を、11月30日から12月27日までまんが館企画展示室で開催しました。

「入賞作品」、「一次審査通過作品」、「県内応募作品」と3つのカテゴリーに分けられた展示を観て、自身の作品が「一次審査を通過していた」ということがわかり、次回の「4コマまんが大賞」への応募の意欲を高めた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

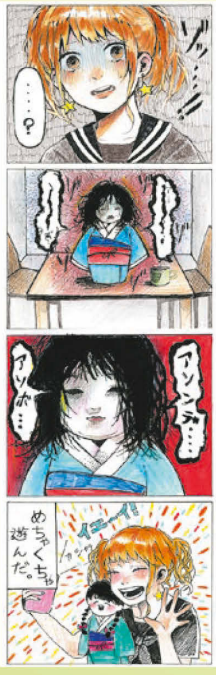
ギャラリー賞「一般部門」

「じゃんけん」



芦野 暁

「アンボウ」



上石 真輝

に贈られる「ギャラリー賞」には、一般・ジュニア各部門それぞれ5作品が選ばれました。受賞者の皆さま、おめでとうございます。そして、一つ一つの作品をじっくり鑑賞し、「これは」と思う作品に一票を投じてくださった審査員(来場者)の皆さま、ありがとうございます。

また、会場にはこれまでの入賞作品をまとめたファイルを閲覧できるコーナーを設けていました。「過去の作品もじっくり見られて楽しかった。(30代・女性)」とお声をいただきました。

「嫌がらせ」



神谷 涼太

「よくできた食品サンプル」



吉松 靖祐

「オタピオカジャクシ」



P.N.れ

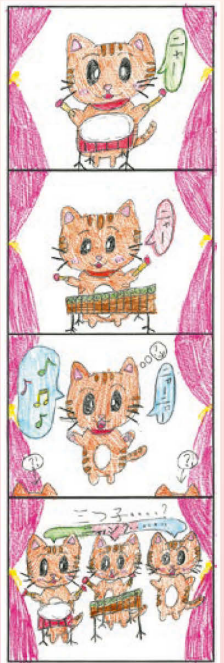
ギャラリー賞「ジュニア部門」

「プリン」



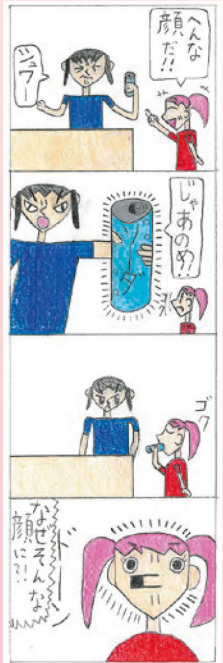
福岡 柚之介

「三つ子ねこのえんそつ云」



P.N. なぎ

「初めての炭酸」



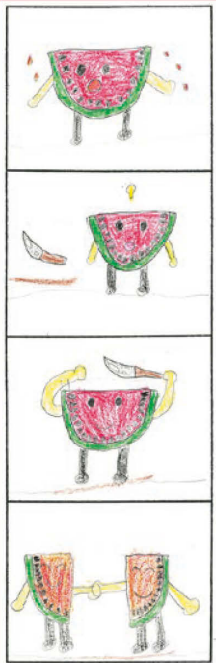
小松 千鶴

「犬VS人間」



蟹井 綾斗

「すいかくんのおさんぽ」



おちあいさき

カメラと隆一展

～集めることに意味がある～

二十世紀を共に生きたカメラコレクション



会場入り口



1964年の東京オリンピックにも実はカメラと深いつながりが…



監修の中島さんによるギャラリートーク



隆一と同じ年のカメラ「サンダーソントロピカルモデル」

横山隆一がカメラを初めて手にしたのは「10歳の時、父親に買った。もらった当時5円だったイーストマン・コダックのボックスカメラだった」と雑誌で語っています。それ以降70年以上にわたってコレクションされたカメラの数々を紹介する企画展を、現在、横山隆一記念ま

んが館企画展示室で開催しています。展示されているカメラは、明治中期から平成初期までのフィルムカメラを中心とした約470台。状態が悪いなど理由で展示していない5台を除く、ほぼ全てのコレクションが展示されている様子は圧巻です。会場の入り口には昔のカメラを体験していただけるよう、触れる二眼レフカメラや、カメラの原理を体験できる組立暗箱などが展示されています。カメラは「時代とともに歩むカメラたち」「お宝発見！ヴィンテージカメラ」「庶民に根付いたカメラ」の3つのテーマ毎に展示。「時代とともに歩むカメラたち」では、年代順に並べられたカメラに沿って、その時代の出来事などがわかるフクちゃん

の4コマまんがを紹介しています。「お宝発見！ヴィンテージカメラ」では、カメラ史を語る上で欠かせないカメラや、ちょっと変わったカメラ、最後まで詳細に根付いたカメラ」の3つのテーマ毎に展示解説も随時行われています。また小さいお子さんから大人まで、カメラに詳しくなくても楽しんでいただけるよう「カメラは何台あるでしょう？」「ヤシルエットからカメラを当てる「私はいくら!?」といった参加型イベントも随時開催。会期終了の3月29日まであと少し。是非会場に足をお運びください。

開催日 ● 2020年1月25日(土)～3月29日(日)

場 所 ● 横山隆一記念まが館企画展示室



1951年サンフランシスコ対日講和会議に取材で渡米した際の貴重な写真

介する企画展を、現在、横山隆一記念まが館企画展示室で開催しています。展示されているカメラは、明治中期から平成初期までのフィルムカメラを中心とした約470台。状態が悪いなど理由で展示していない5台を除く、ほぼ全てのコレクションが展示されている様子は圧巻です。会場の入り口には昔のカメラを体験していただけるよう、触れる二眼レフカメラや、カメラの原理を体験できる組立暗箱などが展示されています。カメラは「時代とともに歩むカメラたち」「お宝発見！ヴィンテージカメラ」「庶民に根付いたカメラ」の3つのテーマ毎に展示解説も随時行われています。また、小さいお子さんから大人まで、カメラに詳しくなくても楽しんでいただけるよう「カメラは何台あるでしょう？」「ヤシルエットからカメラを当てる「私はいくら!?」といった参加型イベントも随時開催。会期終了の3月29日まであと少し。是非会場に足をお運びください。

「お宝発見！ヴィンテージカメラ」「庶民に根付いたカメラ」の3つのテーマ毎に展示解説も随時行われています。また、小さいお子さんから大人まで、カメラに詳しくなくても楽しんでいただけるよう「カメラは何台あるでしょう？」「ヤシルエットからカメラを当てる「私はいくら!?」といった参加型イベントも随時開催。会期終了の3月29日まであと少し。是非会場に足をお運びください。

がわからなかったカメラなどをご覧いただけます。「庶民に根付いたカメラ」では、トイカメラやディスクカメラ、カセットカメラなどより私たちの身近になったカメラをご紹介します。名機だけではない隆一のカメラコレクションをご堪能いただけます。隆一はまんがの中にも度々カメラを登場させました。「隆一とカメラ」描かれたカメラのコーナーでは隆一がカメラをどのようにとらえ、表現していたかを展示しています。時事の中のカメラエピソードを拾った作品や、なげない日常に登場し当時の人々にとってカメラがどのような存在だったかを描いた作品、プロのカメラマンたちをちよつと皮肉った作品などを紹介。また、カメラについて語った雑誌の記事や、実際に隆一が撮った貴重な記録写真などをご覧いただけます。

「それ恐怖症」



写真家

中島 健蔵

まんがと私



まんがに関する思い出といえば「それ」の話しか浮かばない。「それ」はカタカナで三文字、恐ろしくて書けないし、今も「それ」が頭に浮かぶので、トキドキしながら書いている。

高知市内、昭和40年代の出来事。従姉の入院先へ見舞いに行き、病室で一人にされた。病室には少女まんが雑誌が一冊残されていたので、何気に見ていると椋図が先生の「それ」先生が連載されていた。まんがを見て怖くなつてしまい、親を探しに病室のドアを開けた途端目の前に「それ」状の人が立っていたのだ。

以来、中学生の頃には母と買い物中に「それ」状の人に出くわし腰が抜けたり、大学生の頃には家業の米屋で留守番中に家の前を「それ」が往復し、やはり腰が抜けた。土間でへたり込んでいるところへ母が息せき切って帰宅。第一声は「見たろう？」だった。

妹が入院した時も、わざわざ電話で『大部屋に全身「それ」状態者が居るから来るな』との事で行ける訳が無い。極めつけは伯父の友人のM先生(原美術教員の大御所)は、宴席がしらけたら、トイレでトイレレットペーパーを体中に巻き付け、「それ」男だ」と乱入し、宴席を盛り上げた。これはたまらなかったので以来、横眼でM先生の動向をつかがい、席を外すと同時に逃げ出す危機管理能力が身に着いた。

椋図先生には恨みはないし、人には苦手なものがあると学習できた事だけは記しておきたい。原稿の依頼を受け、60歳を超えて初めて人前で話せた。

お城下文化の日・特別展示 漫画集団・キヤットアート展

高知市内中心部にある8つの文化施設が連携する「高知お城下文化施設の日」(通称:お城下ネット)の合同イベント、「お城下文化の日」が2019年11月17日(日)に開催されました。まんが館では、イベント特別展示として漫画集団が1997年に東京日本橋店で開催したキヤットアート展の出版作品の「招き猫」を公開しました。杉浦幸雄、多田ヒロシ、古川タク、久里洋二、階堂正弘、矢野徳など漫画集団所属の作家32名が、招き猫の型に絵付けした大小様々、ユーモアあふれる猫たちが並びました。



冬休みまんが体験イベント まんがで遊ぼう！プレクリスマス

平成時代には「まんがで遊ぼう！クリスマススイブ」²として12月23日に開催日を固定していた冬休みまんが体験イベント。元号が令和に改まった今回からは、クリスマス直前の日曜日開催日を変更し、「まんがで遊ぼう！プレクリスマス」と名称も新たに、12月22日(日)まんがライブラリー2で開催しました。

当日は、みぞれまじりの雨が降るあいにくのお天気。誰も来てくれなかったらどうしよう...と不安になった事務局でしたが、無事、続々と子どもたちが来館。開催中の4コマまんが大賞作品展のギャラリー賞への投票を済ませた後、缶バッジ・カレンダー・クリスマスカード・ミニクリスマスツリーの4つの中から好きなものを選んで、世界に一つの作品を作りました。参加者は、お友達とおしゃべりしながら絵を描いたり、家族で競いあって工作を楽しんでいました。

まんが館入り口に置いたクリスマスツリーには、皆さんから寄せられたイラストが飾り付けられ、ピカピカと灯りが点滅してクリスマス気分を盛り上げていました。

第1回やなせたかし文化賞受賞者展PART3

2019年12月18日(水)〜2020年3月16日(月)の間、香美市立やなせたかし記念館 詩とメルヘン絵本館において、第1回やなせたかし文化賞受賞者展PART3が開催されました。

やなせたかし文化賞は、優れた子ども文化の創造とその発展を図り、子ども文化の向上と振興に資するため設立された賞で、第1回は大賞を含め、5組の個人・団体が受賞されました。

今回のPART3では、アニメ制作会社「エクラアニマル」と、唯一高知から受賞された村岡マサヒロさんの作品が展示されました。村岡さんについては、代表作「きんこん土佐日記」の連載から現在までの歴史を創作の裏話も交えながらユニークに解説された展示のほか、過去に絵金蔵に出展した屏風絵、さまざま企業とコラボレーションしたグッズ類などが展示されました。



館のご案内

開館時間 9:00~18:00
休館日 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館) 年末年始(12月28日~1月4日)
常設展示観覧料
 一般410円
 団体(20名以上)320円・65歳以上200円・高校生以下無料
 身体障害者手帳(1、2級)、療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者(1名)は200円
お問い合わせ先
 〒781-9529 高知市九反田2-1
 高知市文化プラザかるぼーと内
 横山隆一記念まんが館
 TEL:088-883-5029
 FAX:088-883-5049
 URL: <http://www.kfca.jp/mangan/>
 E-mail: mangan@kfca.jp



横山隆一記念まんが館へは、高知市文化プラザかるぼーと3階の入口よりご入場ください。

新着図書(2019年11月~2020年1月)

『鎌倉えほん作家通信』
 『ワンダーブック』第3巻 1・8・9・12号
 完全版ピーナッツ全集11-13巻、17-18巻
 アンパンマン ミニしかけ絵本 いろがへんしん! やなせたかし
 アンパンマン ミニしかけ絵本 どんなかお? やなせたかし
 『ゆづちゃんはハリネズミがささっている』 雪本愁二
 『おうちで深夜食堂』安倍夜郎ほか



隆一のカメラコレクションの調査を始めたのは昨年の1月。最初は「このカメラどうやって開くの?」から始まったカメラの調査は年末まで続きました。コレクションの多くは、フィルムカメラでデジタルカメラは一台もありませんでした。隆一は「フィルムが手に入らなくなったものは、ときおりシャッターを切って音を楽しんだ」と書いています。裏蓋を開け、フィルムを入れ、シャッタースピードや露出、ピントを合わせてシャッターを切る。その手間を楽しんだのです。まさに「楽しみを見つける」隆一らしいコレクションといえるでしょう。(志)

そのほか続々入荷中!